

【様式①】令和5年度 学校評価書(幼稚園)

園名 加納幼稚園

園長名 広瀬 みゆき

市の重点課題	園の重点項目	自己評価	達成状況
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・近隣の小・中学校、専門学校、老人クラブ、未就園児との交流や、地域の人材を生かした触れ合いの場づくりの取り組みを工夫する。 ・コミュニティ・スクールを活用すると共に、保育サポーターや安全見守り隊等の協力を、保護者や地域、学生等広く周知し、組織的、計画的に協働を図り、振り返りを通してよりよい機能充実を具体化する。 ・全職員の協力体制のもと、子ども・保護者が安心して通うことができる教育活動を行う。	A	・今年度は、小中学校に加えて、老人クラブとの交流も復活させ、子どもたちが様々な人とかわりかもてるように働きかけていった。 ・各学校との交流にあたり、昨年度の交流を振り返りながら、事前の計画・打ち合わせができた。 ・行事や交流の際はもちろん、日頃の子どもたちの姿を積極的にHPに載せるように努めることができた。 ・様々な形で来園して下さったことへの感謝も含め、活動の中で、自分から声を掛け、丁寧な対応をすることができた。 ・朝礼・週案・職員会・研究会や日常の会話の中で、園児への援助や安全について話す機会が多く、さらに丁寧に迅速な対応ができていた。 ・保護者からの相談に対して、丁寧に話を聞き、誠実に対応することができた。
あたたかさや働きがいにあふれる園づくり	・多様な人のかかわりのなかで、様々な文化や価値観に触れる機会をもち、人に対する思いやりの気持ちをもてるようにする。また、生命の尊厳や人権に関わること、よいことや悪いことに気づき、考えながら行動すること等を育むことで、将来的にいじめの抑止につなげていく。 ・子どもの興味・関心に沿って日々の環境構成を考え、学びが生まれる遊びの大切さを職員が振り返られるようにする。毎月の研究会での事例発表のなかで、学びが生まれるための遊びについて共通理解を深め、日々の保育で実践していく。 ・職員の働き方改革の実現のため、行事や日常業務の精選・見直しを図り、ICTの活用を進めていく。	A	・ALT・専門学校・小中高の生徒との交流で、相手の様子に気づいたり、考えて行動する姿を引き出すことができた。 ・多様な先生方の説明の後に絵本を用いて、更に理解を深めたり、手話を表し示したりして、子ども達が積極的に多様性を認め交流できるように工夫した。 ・ALT交流では、教師が自ら積極的に話しかけ、子ども達が交流の楽しさを感じられるようにした。 ・子どもたちの遊びの様子に合わせて、時に他教諭と話しながら、環境を構成し、再構成しながら保育に努めた。 ・子どもたちの興味を捉えながらも、どんな遊びやドリグリーや落ち葉の遊び等、その季節ならではの遊びを経験できるような環境構成を考えていくことができた。 ・行事の参加や異年齢交流の仕方を昨年度と同じように行うのではなく、見直しをしながら充実した取組になるように考えていくことができた。 ・業務のあり方、行事の立ち方について、その都度話し合う機会をもつことはできた。
全教職員の共通理解・共通行動による指導体制の確立	・地域コミュニティとの協働による教育内容の成果を、HPやSNS等のICTを活用して積極的に公表し、教育DXの推進に努める。 ・園長の経営方針のもと、教頭・主任を中核に、目標を具現化・重点化し、全教職員の協力体制のもと、教育活動を進める。	B	・YouTube配信や、活動報告・運動会の取り組みのHPへの掲載など、幼稚園でのことを地域に発信していくことができた。 ・保護者だけでなく地域の方に向けても、遊びの中の学びが伝えられるように、写真を用いて伝えることに努めた。 ・研究会では、明日の保育につながるように、子ども一人一人の発達の特性を捉えた教師の援助や環境構成について考えることができた。 ・日常の姿を保育記録に残し、学期の終わりに振り返ったり、懇談に生かしたりした。子どもの姿から、何を楽しんでいるか、どんな遊び方だと苦手意識を感じず遊べるか等考え、日頃から工夫するようになった。
家庭・地域に開かれた園づくりの推進	・学校安全教育計画に基づき、危機管理意識を高くもちながら、子どもへの安全教育を計画的に進める。 ・施設設備や遊具・用具の点検を定期的に行い、安全意識をもつ。 ・未就園の遊びの会や園庭開放などを通して、在園児の保護者以外の保護者に対する、幼稚園の知見を活かした家庭教育支援を行う。 ・園の教育活動について、教職員や保護者・地域住民、学校運営協議会等による学校評価を実施公表し、幼稚園経営の改善に生かす。	A	・日直の見回りや安全点検で気付いたことを養護教諭に伝え、子どもたちが安全な生活を送ることができるように努めた。 ・安全点検、日常点検や全職員からの気付きを活かし、迅速に対応できるようにした。 ・毎月の安全点検だけではなく、常に日頃から、危機管理意識をもって保育にあたることができた。 ・安全点検では、見た目だけでなく触ったり少し揺らしたりして、子どもが安全に生活できるか丁寧に点検した。 ・未就園児に、広さがある部屋でそそで遊ばせ、家庭でもできる遊びを紹介していくようにした。 ・園庭開放では、来てくださった未就園児の保護者や未就園児が楽しく遊ぶことができるように声を掛けたり、環境を準備したりした。 ・研究会の講師、ご意見、ご助言、ご指導いただいたことができ、自分自身では気づけなかったことが学べる機会となり、保育を見直すことができた。
教育環境と幼稚園財務環境の整備及び効果的な活用	・あらゆる事態を想定するなかで、防災・防犯教育を実施し、振り返りを通して、見直し改善を図る。園内の危険個所の見直しを行い、マニュアルを修正する。 ・綿密な計画を遂行すると共に、地域コミュニティとの協働の中で、危機管理体制を確立できるように工夫する。 ・個人情報や財務・納入金の適切な管理をする。	A	・計画に沿って訓練を行うことができた。訓練後は、反省をし、実際に起きた時にどうするかという視点で考えていくことができた。 ・子どもと一緒に、避難する時に気を付けることを考えることで、子ども自身も自分事として捉えて取り組めたように思う。いつ自然災害や不審者が来るかわからないことを伝え、真剣に取り組む大切さも伝えてきた。 ・その都度、遊びの中で、遊具や道具の使い方、危険個所を伝えたりしながら保育にあたりながら。 ・特に、プールや園外保育などの時には、いつも以上に、人数把握を他教諭と確認し合いながら進めていくことができた。 ・個人情報や財務・納入金については、慎重に取り扱い、取り扱っていただくことができた。 ・学費費など、保護者から集めたお金であるということ意識して購入し、子どもたちにも物の扱い方を伝えながら、保育に努めることができた。

改善の方向
・交流の際、どんなことに配慮したり、どんなときに交流相手に声掛けをしたりするとか等、具体的に考えられるようにする。 ・地域のサポーターさんの活躍できる場を、さらに考えていきたい。 ・今後も、必要に応じて、地域や保護者、学生などに協力いただきながら、みんなで子どもたちの育ちを支えていけるようにし、お礼の声掛けなど、温かい対応を心掛けていきたい。 ・できることは進んで取組み、職員で協力し、遊びや行事について進めていく。
・引き続き、教師が積極的に交流することで、子どもたちが多様性を認めながら、思いやりをもって関わるることができるように努める。 ・交流したことを、その場で終わりでなく、全ての職員が、その後の遊びや生活につなげていくことができるように、考えていきたい。 ・子どもの必要感以上に、準備や、援助をしすぎないように、子どもたちの興味・関心に合わせて保育をしていきたい。 ・記録を通して保育を振り返ったり、文献から学んだりしながら、自分自身の保育の質の向上に取り組んでいきたい。 ・ICTの活用方法について、自分自身が学び、普段の保育の中で活用できることを提案する。 ・業務改善案を実施できるように、それぞれで考え、全体で発信していく。
・遊びの中の学びを保護者だけでなく、ホームページを見て頂けるすべての人に伝えられるようにしていく。 ・YouTubeやHPなど皆でつくり上げるという意識をもって、自分にできることがあったらしていく。 ・子どもと一緒に創り出す環境、援助について、今後も深めていけるよう、他教諭と話し合ったり、自己研鑽に努めたい。 ・学びが得られる遊びの環境について理解を深め、実践していきたい。
・安全点検の際だけではなく、常に日頃から、危機管理意識をもって保育にあたる。 ・怪我において、原因の究明を行い、今後の対応策を検討し、改善に努めているが、今後もあらゆることを想定し、危機管理意識をもって他教諭と確認し合いながら、保育にあたるようにしていきたい。 ・見逃しもあるため、週案や職員会でも施設設備に不備がないか聞いていく。 ・未就園児の会に来たお子さんが、入園につながるよう、幼稚園の魅力を伝えたり、楽しい企画を考えたりしていく。 ・1人でも入園希望の方が増えるよう、園庭開放などで、未就園児や保護者の方の様子を伺いながら声をかけ、一緒に遊びながら、幼稚園の良さを体感してもらえよう。今一度、環境を見直して保育に努めたい。 ・日頃からの、保護者とのコミュニケーションを大事にしながらも、アンケートの結果を受けて、要望のある保護者の方に対し、迅速に対応していく。
・非常事態時は、計画通りに行かないことも想定し、職員がそれぞれどう対応していくのか把握しておく。 ・訓練が形式的に行うだけにならないようにする。それぞれの職員が違う状況に置かれたとしても、対応できるようにする。 ・全ての物を撤去することで、経験不足による怪我の多発を避けてははいけないが、場面や状況に応じて遊具や道具を、出したり、片付けたりして、安全な園生活が送れるよう、今一度、環境を見直して保育に努めたい。 ・引き続き、個人に合わせて、危険な場所や遊び方を伝えていったり、集団生活の中での約束などを確かめていき、子どもたちが安全で楽しい園生活が送れるように危機管理意識をもって保育していきたい。 ・個人情報や財務・納入金などが内容、今後とも慎重に取り扱っていききたい。

HPアドレス: <https://gifu-city.school/cms.net/kanou-k/>